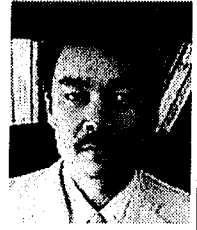


検証 公共事業をめぐる逆風世論

寄稿

～道路関連報道に見る基本的国家了解の溶解～

VOL.2



藤井 聡 (ふじい さとし)

京都大学大学院工学研究
科都市社会学専攻教授

大衆の気分の増幅装置としてのマスコミ報道

ところで、こうした事態がもたらされた図式としてしばしば想起されるものは、(1)報道番組側がある意見を持っている、(2)それを、大衆に報道する、(3)その結果、大衆世論はその方向に流れていく、という単純な図式である。しかし、実態は必ずしもそう単純なものではない。なぜなら、この(1)の「ニュースキャスターが持つ意見」なるものの源がどこにあるかと問えば、それはニュースキャスター本人が創出したというよりはむしろ、「大衆の気分」そのものだからである。すなわち、報道番組は大衆の気分が求めるものを提供しているに過ぎないのである。その意味に於いて、報道番組は大衆世論の「生成装置」というよりは、大衆の気分の「増幅装置」であると見た方が適当であると言えようであろう。

例えば筆者は、こうした報道が繰り返される前に、次のような体験をしたことがある。

て一体化(最大重量35t)の中や地下道路を探検できる内容で、今月30日までに橋面の軌道上を0日まで参加者を募集す

対象は小学生以上(小学生は保護者同伴)。

生は保護者同伴。

午前9時15分に福井

問い合わせは同支部(電話06-6271-6686)まで。

明らかにした制度融資枠の拡大に言及。緊急経営スな利用と今後の需要を安定支援融資を900億踏まえ、今回融資枠を拡

筆者は、普段の仕事では道路行政のお手伝いをすることが多い。だからであろう、とある会食の席にて新しい人物に「道路って、本当にいるのか?」という質問を受けた。それは純粋な知的好奇心から尋ねているというよりは、当方が道路行政とそれなりの関わりを持っているということを通じて、当方をやりこめることを通じて道路行政を軽くいたがってやろうという気配を十二分に漂わせた質問であった。当方としてはそうした気配もあるのだから、それとなく無視しても良かったのだが、一応「道路がない、というのでは交通が立ちいかないので必要なのは当然である。しかし、個々の道路事業については、要る場合もあれば要らない場合もあるだろう」と差し障りの無い形で答えてみた。するとそこからさらに、道路の計画決定についての質問を立て続けに頂戴してしまつたので、「計画決定されたのなら、それをちょっとしたことでも無かったことにする」というのは、あまりにもそれを決めた方に対して失礼である。そんな

ことばかりしていれば、今何を決めるよすがの意味がなくなってしまう。一旦決めたことは、特に、国が正式に一旦決定したことについては、よほどの問題が無い限り実行する」といふのは議論以前の問題だろう」とも答えてしまった。どうやら、これが癪に障つたりして、「そんなのは不合理ではないか。国が決めるよすがが何しようが、要らなければ作らなければいいじゃないか」ということとなり、挙げ句に「それじゃあ、例えば、第二名神道路なんか、要らんのではないか?」と、具体的事例を挙げたさらなる追撃を受けてしまった。しかし、それにきちんと答えるには、実際のところ、それなりの情報がないと判断ができない。そして何より、自らが「決断する立場」にあるのなら、自らの情報量がどの程度であるかはさておき、とにかく可能な限りの情報を集め、その範囲で要る要らないを判断し、決断してみせざるを得ないのであるから、さうしようと思すべきであろう。ただし、そういう局面に直面していない単なる酒飲み話の席のような状況においては、「要るかも知れないが、要らないかも知れない」という事以上は何とも言えない(無論、「もし、自分が意思決定権を持つなら」というような仮想的議論

を盛り込んだ会話をするのはなかなか一興ではあるが、残念ながらさういふ楽しい席にはなりそうになかった。それをできるだけ分かり易く説明したつもりであったのだが、通じる気配はない。そんなやりとりの中で、先方から「第二名神道路なんか、絶対要らないだろう」となる発言があったので、ついつい、「絶対」に要るとか要らないとか、さういふ断定的なことをおっしゃるのはいかがなものかと強い調子でたしなめてしまった。後ほもう、自分のその発言がその場を凍らせてしまったので、この話しはここで終わることになったのだが、いずれにしてもこの話しは、今回の道路特定財源の一般財源化の議論がマスコミで取り沙汰される以前から、一般の多くの人々が、道路行政に対して概して否定的な気分を抱いていたことを暗示しているように思う。こうした気分が大衆の中にあるからこそ、マスコミはことごとぎこの問題を取り上げていたのである。そして、それがあるからこそ道路の話題が政治課題に登る顛末となつたのであろう。おそらくはこうした大衆の気分の不条理さは、公共事業について誠実に考えたことが有る者ならば誰しもが、容易に理解できるのではなからうか。

平成21年9月5日 建設工業新聞掲載

金沢国税局が4日発表
した2008年度滞納整
ると、新たに
納額は前年度
増の150
万円と大幅に
申告所得税の
他局から転入
主因という。
間整理済額は
増の245億
円。このうち

にブランド化
津若松市は、
栽培される野
を「會津野彩
さい」として
度を新たに始
廠課は「京野
ひかないブラン
い」と意気込
地元スーパー
ほか、首都圏
活動も行って

認証されたのは約20
品目。「会津丸茄子(ま
るなす)」「などの伝統野
菜や、「会津身不知柿
(みしらず柿)」「とこっ
た果物も含まれる。